

溶連菌感染症（しょうこう熱）

<どんな症状>

39℃前後の高熱とのどの痛み、全身の発疹が特徴です。のどと舌が赤くなり、ぶつぶつができていちごのようになる（いちご舌）と同時に、胸や首、もものつけ根に細かい発疹があらわれ、1～2日で全身に広がります。からだ全体が赤く見えます。

<どんな病気>

溶血性連鎖球菌（溶連菌）がのどの扁桃に感染しておきる病気で、乳幼児よりも学童に多く見られます。最近では抗生物質のおかげで症状が軽く、人に感染する病気なので外出は控えましょう。自宅療養を行うことが多くなっています。

<手当て>

発熱している間は安静にして、のどが痛ければ首を冷やしてうがいさせます。処方してもらった抗生物質は、症状がなくなっても最後まで飲みつづけることが大切です。抗生物質を途中で勝手にやめてしまうと、溶血性連鎖球菌が体内に残って急性腎炎やリウマチ熱などの合併症を引き起こしたり、他の人を感染させることもあります。発疹がかゆいときは、かゆみ止めの軟膏を処方してもらいましょう。

